



網走養護学校だより

令和2年度
第4号
(通209巻号)
11月20日発行

TEL 0152-48-2137

経験・体験を通して

校長 上村喜明

秋の紅葉の季節から、早くも雪の舞う季節となり、日ごと寒さが増してきました。日頃から、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

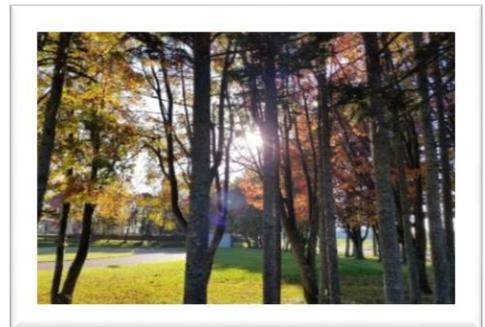
今年度は、新型コロナウイルス感染症のまん延の終息が未だ見えない状況により、今までにない対応・対策をしながら教育活動を行っております。その中において、2学期から、少しずつ行事についても実施をしており、延期をしていました宿泊研修や見学旅行を9月中に実施、10月には学校祭を開催しました。どの行事、学習においても、制限、対策等をしながらの実施です。コロナ禍においても限られた状況の中で児童生徒は様々な学習に元気に取り組んでいました。一人一人が様々なことを感じたり、興味が広がったり、発表等での自信を高めたりできたと感じています。

現在、コロナ感染が全道に拡大、道の警戒ステージも「3」に移行し、見通しがもてない状況ですが、教職員一同コロナ、風邪、インフル等の対策を徹底しながら、教育活動を推進しているところです。保護者の皆様には、ご迷惑をおかけし感染予防の対策にご理解とご協力をいただき、感謝いたしております。

次年度は、コロナが終息し、地域の皆様など多くの方に学校や行事等にきていただける状況になればと祈るばかりです。

保護者の皆様、地域の皆様、コロナ禍の状況が続くと思われまします。皆様においてもご健康に留意され、本校の教育活動を温かく見守っていただければ幸いです。

今後ともご理解とご支援の程よろしくお願いいたします。



「校地内：木々の間から秋の木もれび」

第47回 学校祭

小学部

今年の小学部は『ABA Tube~It's『小』time~』と題し、人気ユーチューバーを目指す6年生ユニット『レインボードリーム』が、人気ユーチューバーたちを訪ね、大切なことを学んでいくストーリーの演目を行いました。

『どんどこTV』の力強い和太鼓演奏、『Toy's CHANNEL』のすてきなリトミック、『ソーシャルディスタンス』のダンス&ミュージック、『レインボードリーム』の華麗な車椅子ダンスと、小学部らしさがいっぱい詰まった演目で、演目終了後の子どもたちの表情には「やりきった!」「がんばった!」という思いがあふれ出ていたのが印象的でした。

今年度の学校祭は例年と異なり、新型コロナウイルス感染症防止対策を取りながらの開催となりました。保護者の皆様のご協力に感謝申し上げますと共に、たくさんの拍手と「いいね!」で舞台を盛り上げてくださり、本当にありがとうございました。(文責：小久保)

中学部

今年の中学部は『ドラえもん』を題材にし、道具に頼ってばかりの『のびた』が友達の協力を得て、自分の力で困難に立ち向かうストーリーの演目を行いました。

生徒達は朝から緊張した表情で、中学部の演目の順番を待っていましたが、いざ始まってみると、練習よりも大きな声で、ハキハキとセリフを言うことができたり、堂々と太鼓の演奏をしたりと、さっきまでの表情が嘘だったかのような発表を見せてくれました。

今年度は新型コロナウイルスの影響で学校行事が延期、縮小される中、保護者の皆様のご協力ですぐに学校祭を行うことができました。本番の前に生徒が、「お母さん見にくる。うまくできるかな。」と言って緊張しているのを見て、改めて保護者の皆様に生徒の活動を見ていただくことの大切さを感じました。保護者の皆様のご協力に感謝申し上げますと共に、たくさんの手拍子や拍手で舞台を盛り上げてくださり、本当にありがとうございました。（文責：大澤）



高等部

今年の高等部販売会は、いつもお世話になっている保護者の皆様に心を込めて販売をしました。園芸班では、赤白花豆の移動販売と入浴剤の販売を行いました。毎年大人気の商品のため、販売を開始してすぐに売り切れとなりました。紙工班では、パルプを使用したストラップやポチ袋などを販売しました。元気に挨拶をする声が聞こえ、とても繁盛していました。手芸班では、一つずつ丁寧に作ったコースターやティッシュカバーを販売しました。チームワークを活かした連携で、たくさんの商品を買っていただきました。

3年生は最後の学校祭となってしまいましたが、楽しかったですか？仲間と取り組んだ学校祭を思い出に、次のステージに向けて頑張ってください。（文責：久保田）



編集後記 10月24日（土）に行われた学校祭の様子をお伝えしました。新型コロナウイルス感染症の流行に関わり、様々な制限・対策を設けた上での実施となりましたが、全ての児童生徒が、日頃の学習の成果を存分に発揮した素晴らしい学校祭となりました。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。（文責：宍戸）